

No.3 8 2026 年 8 月 16 日				
三位一体後 第十一主日 礼拝				
説教 『祈りの心』				
吉丸初美師				
司会 安部愛さん				
奏楽 白石百合子さん				
招詞 エペソ人手紙2章4～5節				
主の祈 (564)				
讃詠 5 4 6				
交読詩編 詩 4 1 編				
祈禱				
讃美歌 21 - 1 4 1				
使徒信条 (566)				
聖書 ルカ福音書 18章9～14節				
説教 (口語訳120頁、新共同訳144頁)				
『祈りの心』				
祈禱				
讃美歌 21- 4 4 1				
献金				
感謝				
報告				
頌栄 5 4 4				
祝禱				
後奏				
次週の礼拝(三位一体後第十二主日礼拝)				
説教『キリストを土台として』				
I コリント人への手紙 3章9～17節				
招詞 マルコ福音書 7章32節				
交読詩篇 詩篇 6 2 篇				
讃美歌 546、21-149、21-66、539				
礼拝当番				
今週 16 日 司会 安部愛さん				
次週 23 日 司会 吉丸初美さん				
会堂清掃奉仕				

本日の集会

★教会学校 午前9時45分～

★コーヒータイム 礼拝後～

それぞれの思いを語り合しましょう。

今週の集会/スケジュール

★聖書を読む会 8月18日(火)10時30分～12時
創世記23章を読んでいきます。
声を出して聖書を読み、御言葉に触れています。

§広島拘置所教誨奉仕 8月19日(水)13時30～16時
施設にある方の信仰生活を覚えてお祈り下さい。

§広島キリスト教信徒会理事会 8月21日(金)15時～
会場：広島復活教会

次週以降のスケジュール等

●レコードコンサート 8月23日(日)13:00～15:30
メンデルスゾーン 弦楽四重奏曲変ホ長調作品26
交響曲 第3番 イ短調〈スコッチ〉作品 56
素敵な音楽で心を和ませては如何ですか

§外キ協全国リレー集会in広島 条例制定ネットワーク
第11回学習会 8月23日(日)15時～17時
会場：広島カトリック会館 多目的ホール
お話：佐藤信之さん 資料代：500円

🔔中四国ハンドベル委員会 8月29日(土)18時～
会場：広島西部教会

★広島キリスト教信徒会例会 9月26日(土)14:00～

◎高橋佳紀さん(圭子さん次男・仙台在住) ご一家
お揃いで13日に来訪されました。父・弟さんの墓参りと、清鈴園に入所中のお祖母さんを訪問されました。そろってお元気で皆さんによろしくとのこと。

◎夏期特別献金
神さまの恵みを感謝して、感謝と献身の祈りの中に夏期特別献金を捧げましょう。
目標額 150,000円

先週の集会	男	女	計
教会学校	0	0	0
主日礼拝	2	3	5

◇今週の説教要旨(三位一体後第十一主日礼拝)				
『祈りの心』 ルカ福音書 18章9～14節				
「自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう」神との関係における逆転的真理が記される。ルカ福音書のはじめには神への賛美の歌が伝えられている。主イエスは弟子たちに祈りを進めた。「父」である神に対する祈りだ。主の祈りも「父」ではじまる。そして、祈り求めれば与えられるとの約束が与えられた。失望せずに常に祈るべきだと教える。信仰生活の食物は御言葉であり、呼吸は祈りだと聞いたことがある。祈りによって信仰は生き、生きた信仰は祈りを生む。しかし、すべての祈りが純粋で喜ばれるとは限らないことが示された。どこがどのように違うのだろうか。律法遵守することで自分たちだけが神から義と認められ救いに与ると確信していたパリサイ人たちの祈り。一方は仕事柄異教徒と接触するため汚れたものとみなされ、軽蔑の対象として罪人と呼ばれ忌み嫌われていた取税人の祈りだった。わたしたちはどちらに近い祈りをしているだろうか。祈りの言葉とその心はどこを向いて何を祈っているだろうか。二人の祈りが比べられる。神に「義」とされたのはどちらか。神からの「義」を受け取るためには何が必要なのか。わたしたちは先ず自分の中の何が「問題」なのかを知らなければならない。神との正しい関係は自分の罪を知ることからはじまる。十字架の出来事に示された深き神の愛に包まれたとき光であり真理である主イエスとの出会いによって罪が明るみに出る。そしてへりくだり神に罪の告白をして罪に背を向ける決心をする。「義」とされたのは徴税人だった。なぜなら神に自分自身を推薦する者は誰でも神の前に低くされ、自分を低くする者は高くされるからだ。このように謙虚と謙遜が神のあわれみへと通じる戸を開くのである。しかし、パリサイ人は罪に定められた、と聖書は語らない。自分の功績を誇る信心家もまた神に属している。わたしたちが信仰を持ち祈ることができるのは、ただ神の恵みの賜物である。だからこそわたしたちは胸をたたき自分の罪深さを悲しみ、神にあわれみを祈り求め続けなければならない。神の愛に応え主イエス・キリストと共に生きるために。 マラナ・タ				